

3 ③の事例と⑤の事例、読み手に取って身近なのはどちらの事例だろう？ ③・⑤



筆者はなぜ③の事例を始めに挙げたんだろう？③↓④↓⑤↓⑥の順番にも意味があるのかな？筆者の意図を想像して書いてみよう。

「あっ!! たしかに!!」こまぎは身近な、みんなが経験したことのあるような事例をあげることで、「心の時間」というものを理解できるようにした。そのあと続く④↓⑤↓⑥にフットは、経験のあり、なしの差があるので③のあとでよかったと思う。⑥は、③↓④↓⑤

異なり、すべてが共通する事例なので最後でよかったと思う。④↓⑤にフットは  
④の事例と⑤の事例に図や表がのっているのはなぜだろう？筆者の意図を想像して書いてみよう。

「分かりにくいから。グラフや表があることで、目に見える形となり、なるほど!!」と納得しやすくなる。

五時目

1 ★学習ノートP14〜16 ここまでの学習内容をいねいに復習しようね。

④より⑤のほうが分かりにくく感じ  
たので③✓④✓⑤とだんだん分  
りなくなっていく感じでよかったこ  
とだと思う。

筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう

# 時計の時間と心の時間

読む 一川 誠 文

48~57

めあて

- ◆ 文章中の言葉に着目して、筆者の主張を確かめましょう。
- ◆ 主張と事例の関係をとらえましょう。

◆ 筆者の主張を捉える

## 1 筆者の考えをとらえよう

■ 文章の一字下がりのところに、段落の番号①～⑧を書きましよう。

1 段落①に書かれた筆者の考えをまとめましよう。

「時間」には、「( ) 時計の時間」(「と」心の時間) という性質のちがう二つの時間がある。時間と付き合っていくうえで、「( ) 心の時間」(「に目を向けることが重要である。

「時計の時間」と「心の時間」は、どんなところがちがうのかな。



## 初め

◆ 「心の時間」を理解する

## 2 事例や実験から「心の時間」をとらえよう

1 段落③では、「心の時間」の「進み方が変わる」ことの原因を、どう説明していますか。

〈例〉時間を気にすること、

時間を長く感じさせる効果があるため。

どんな「効果」について説明しているかな。



2 筆者は、段落②で、「心の時間」の特性をどう説明していますか。あつもの二つに○をつけましよう。

- ( ) 地球の動きをもとに定められたもの。
- (○) 私たちが体感している時間。
- ( ) いつでも、どこでも、だれにとっても、同じもの。
- (○) 進み方が変わったり、人によって感覚がちがったりする。

3 実験①・②は、それぞれ「心の時間」がどんなことと関係があることを示していますか。

● 実験①

その時間帯の ( ) 体の動き ( ) のよさ。

● 実験②

身の回りから受ける ( ) 刺激 ( ) の多さ。

2 実験①・②は、何を示すために行われたものですか。

● 実験①

一日の( ) 時間帯 ( ) によって、「心の時間」の進み方が変わること。

● 実験②

身の回りの( ) 環境 ( ) によって、「心の時間」の進み方が変わること。

4 段落⑥で、筆者が実験によって示そうとしている「心の時間」の特性は、どんなことですか。

人によって( ) 感覚が異なる ( ) ということ。

5 段落⑦では、「心の時間」と「時計の時間」の関係をどのように説明していますか。

● 「心の時間」のちがいをこえて、社会を( ) 成り立たせている ( ) のが「時計の時間」である。

● 「時計の時間」と「心の時間」には、必ず( ) ずれ ( ) が生まれる。

◆ 筆者の考えをまとめる  
3 筆者の考えをまとめよう

1 段落⑧で、筆者は、「生活の中で『心の時間』にも目を向けることの大切さ」について、どう述べていますか。

● さまざまな事からのえいきょうで、「心の時間」の( ) 進み方が変わる ( ) と知っていれば、それを考えに入れて計画を立てられる。

● 人それぞれに「心の時間」の( ) 感覚がちがう ( ) ことを知っていれば、たがいを気づかしながら作業を進められる。

2 筆者のいう『時間』と付き合う「ちえ」とは、どんなことですか。

( ) 「心の時間」 ( ) を頭に入れて、

( ) 「時計の時間」 ( ) を道具として使うこと。

筆者は、性質のちがう二つの時間をうまく使うには、この「ちえ」が必要だと主張しているんだね。



◆事例と考えの関係を捉える

## 4 事例と筆者の考えの結び付きを確かめよう

1 段落③～⑥の事例から、「心の時間」についてどんなことが分かりますか。

●段落③の事例

その人がそのときに行っていることを

(どう感じて) いるかで、進み方が変わる。

●段落④の事例

(朝) (や夜、) (昼間) (など、一日の時間帯によって進み方が変わる。

●段落⑤の事例

部屋に物が (多い) (か) (少ない) (かなど、身の回りの環境かんによって、進み方が変わる。

●段落⑥の事例

「心の時間」の (感覚) (は、人によって異なる。

2 筆者の主張が書かれた一文を、段落⑧から書きぬきましよう。

そんな私たちに必要なのは、「心の時間」

を頭に入れて、「時計の時間」を道具とし

て使うという、「時間」と付き合うちえな

のです。

## 3

筆者は、「心の時間」の特性について、なぜ複数の事例を挙げて説明したのでしょうか。あなたの考えを書きましよう。

〈例〉筆者は「心の時間」という考え方自体が、これまで読み手が体験したことのない考え方だと思い、一つの例だけでは理解されないと考えた。そこを理解してもならないと、二つの時間をうまく使って生きるという筆者の主張自体が成り立たなくなるので、身近な例や数値化できる実験結果を示して、「心の時間」について「なるほど、そういうことか」と納得してもらおうとしたのではないだろうか。

★筆者が複数の事例を挙げて説明したことに対する考えが書いてあれば○。

あなたは、これまでに「心の時間」という考え方をしたことがあるかな。

